

過去5年間の国公立大学の進路実績

国公立大学	H26	H27	H28	H29	H30
千葉大学	1				
新潟大学		(1過)			1
東京学芸大学	1				
群馬大学	1		1		1
静岡大学				1	
福島大学					1
帯広畜産大学	1	1			
高知大学	(1過)				
群馬県立女子大学					1
秋田県立大学					1
合計	4	1	1	1	5

*合計数に過年度数は含まない

「本校国公立大学進学の実状」

今年度の進学者は全体で28名（男子15名、女子13名）が大学へ進学を果たした。その中で、過去5年間国公立大学進学者の推移を見ると平成26年度の過年度含む進学者5名と並んだが、現役合格としては過去最高の合格者を出してよく健闘した。

今年度の指導成果としては進学係担当職員の分業化がうまく進み、本校の学習実態に応じた大学受験校の選定やそれに向けた、受験指導が功を奏した結果である。特に、本校は「**農業高校としての王道を行く教育**」を主眼としているため、受験に対する**教育課程のシステム構築やそれに伴うセンター試験対策受験指導など普通科高校に求められるような指導は行わない中で歩んできた**。その為、全国の国公立大学農学部やそれに関係する大学を調べ上げ、その中で本校生徒が受験可能な大学を「**23大学30学科**」をリストアップしてそれを生徒に提示し、受験大学を絞り込んだ。また、3年間歩んできた課題研究や部活動、農業クラブ活動、資格取得などを武器に少しでも受験で有利になるような取組をしてきたことが今回の結果に繋がった。

「国公立大学進学について」

他の専門高校でも同様な事があると思われるが、本校では課題研究や産フェア、地域連携、高大連携、インターンシップ、短期・中期・テェアルシステム、スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業に関わる様々な行事や発表会、農業クラブ、県内・関東～全国大会、それに加えて目白押しの学校行事等本校生徒にとってはまさに、**農業教育の王道を心ゆくまで受ける事が出来る**。それ故、国公立大学受験は**時間との勝負**である。早く志望校を絞りきった生徒がその栄冠を勝ち取る事が出来る。しかし、学習能力の高い生徒ほど、様々な役員や農業クラブ・産フェア・技能五輪・など各種大会に目白押しで出場しているのが現状であり、例えば放課後や長期休業中に基礎学力から積み上げて学習する事が困難な状況に陥りやすいのが大きな課題である。

こうした課題を克服するために、進路指導部進学係では受験の中心的科目小論文や資料読み取り対策として**国語・英語・理科の教員を中心的スタッフ**として受け入れ、指導強化を図ってきた。また、面接や小論文指導の中で農業の専門性を高める指導を**農業科の先生方に協力**を求め、専門知識の指導力を時間のない中、発揮して頂き普通科・農業科教員のモチベーションが高まった結果でもある。

更に、「**多くの受験機会を増やす。**」可能な限り受験に失敗しても次の機会やチャンスを増やす努力を重ねてきた。早い時期に行われる大学のAO入試を積極的に受験させ、「**失敗してもいいから、AO入試は本命大学受験前のスキルアップで、更に合格すればそれは凄い事に繋がる**」と言って、尻込みする受験生にも安心して挑戦できる環境作りにも配慮してきた。

「国公立大学受験結果」

全体で**国立は6大学、公立は2大学**受験し、トータルで10名（複数受験含む）が挑戦した。結果としては、AO入試に至っては6人が受験に挑戦し、2名が合格、1名が1次合格まで進む事が出来た。また、AO入試受験に失敗した生徒のうち2名は本命国公立大学進学を果たし、残り1名は私大農学部、もう1名は環境系専門学校、あと一人は地元農林大学校へ一般受験で合格を果たした。

最後に、AO入試受験をせずに本命国立大学受験1本で挑戦した生徒も見事合格をし、本年度は**5名の生徒が現役で国公立大学合格**を果たす事が出来た。

